

令和4年度 新田小学校 学校評価書（案）

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤とする、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

合言葉【仲よく 強く たくましく】

- ・よく考える子ども : 規範意識をもち、自ら考え、進んで学べる子ども
- ・思いやりのある子ども : 自他のよさに気付き、共に伸びようとする子ども
- ・体力のある子ども : 心身ともに健康で気力や体力に満ちた子ども
- ・はたらく子ども : 目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、保護者・地域住民と一体となって連携・協働し、活気と創意に満ちた教育活動の展開を通して、目指す学校像に迫る。

《目指す学校像》

- 子どもたちが安心して生き生きと自己発揮できる「どの子ども輝く学校」
- 教職員が互いに学び合い磨き合う「働きがいのある学校」
- 保護者にとって「通わせて安心な学校」
- 地域住民と連携・協働する「地域とともにある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 子どもたちが安心して自己発揮できる「どの子ども輝く学校」

- ・互いの違いやよさを認め合うきめ細かな支援を行い、すべての児童にとって居がい感のもてる温かい雰囲気
- ・学級経営を推進する。
- ・一人一人の内面理解に努め、安心して生活できるよう一人一人を大切にします。
- ・道徳科を核にした心の教育や児童への認め励ます教育により、思いやり、自己肯定感・自己有用感を高める。
- ・「宇都宮モデル」を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を展開し、学級を学びに向かう集団に成長させていく。

(2) 教職員が互いに学び合い磨き合う「働きがいのある学校」づくり

- ・創意ある提案や意見交換により組織力を高め、学校経営への参画意識を高める。
- ・協働遂行力・授業力・学級経営力・特別支援教育力の4つの教師力を身に付けるため、教職員の資質・能力向上策を推進する。
- ・県の「学校における働き方改革推進プラン」及び市の「児童と向き合う時間の充実のためのアクションプラン」に基づき、「勤務時間を意識した働き方」「校内業務の効率化」の推進を図る。

(3) 保護者にとって、「通わせて安心な学校」づくり

- ・児童が安心・安全で美しく潤いのある環境の中で生活できるよう、校舎等の点検・整備や学びを高める環境の整備・活用に努める。
- ・児童のよさや学校・学級情報を積極的に発信したり、きめ細かで誠意のある対応を心がけたりして、保護者との共通理解を図る。
- ・家庭や地域の声を収集し、問題点を速やかに工夫・改善するなど誠意ある対応をする。
- ・教科体育の充実、外遊びの奨励等を通して体力の増進を図るとともに、健康を維持・管理する能力を育成する。
- ・PTAによる見守り活動と連携を図ったり、交通安全教室、避難訓練などを実施したりして、児童自らが危険を予測し回避する行動力を身に付ける指導を強化する。

(4) 地域住民と連携・協働する「地域とともにある学校」

- ・地域の教育資源と地域人材のさらなる開発と活用の工夫を図る。
- ・学校支援ボランティアや下校ボランティアなど、高齢者をはじめ学校を支えてくれる方々への感謝の心を育むよう努める。
- ・地域学校園や児童会の取り組み、及び家庭・地域との連携を生かした「あいさつ運動」を通して、規範意識を高める取り組みを推進する。
- ・学校だよりやHP等による情報発信を積極的に推進する。

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 鍛えよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令，県教育振興基本計画 2025，市学校教育スタンダードや指導の重点などを踏まえ，学校経営方針に基づき，知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し，教育目標の達成を期する。
- (2) 「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち，社会の変化に向き合い適切に対応していくため，学校教育を通して育むべき資質・能力を明確にし，教科等の関連や地域の教育資源や人材活用を図り，適切かつ，一貫性のある教育過程の編成に努める。
- (3) うつのみやマネジメントシステムによる評価等を踏まえ，実態に即した創意ある教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

個と集団を育てる教育の実践，組織力・同僚性による効率的な職務の遂行，家庭・地域と一体となった取組の推進などによる，活気と創意に満ちた信頼される学校づくり

- 「認めて伸ばす教育」の実践
- あいさつの響く学校づくりの推進
 - ・楽しい授業と居心地のよい温かな学級集団づくりの推進
 - ・読書活動の推進
 - ・勤務時間を意識した効率的な業務の遂行
 - ・子どもの姿を伝える情報発信

【 学 習 指 導 】

「自ら学び，互いに高め合う児童の育成」

～ 自分の思いを豊かに表現するための授業の工夫 ～

- 望ましい学習態度，習慣の定着
- 「学力の基礎・基本」の確実な定着
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - ・読解力・表現力の育成
 - 読書活動の推進
 - 家庭学習の習慣化

【 児 童 生 徒 指 導 】

「自他への思いやりの心を持ち，豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」

～ 学年・学級経営の充実を基盤として ～

- 礼儀を意識したあいさつの定着，規範意識の醸成
 - ・自己肯定感・自己有用感を育む学級経営の工夫
 - ・主体性・思いやりを育むための縦割り班活動や異学年交流の充実
 - ・奉仕の心をもち，自ら進んで仕事に取り組む態度の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

「自らの健康に関心を持ち，望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成」

～ 生活習慣の改善を目指した保健指導の取組を中心として ～

- 健康の保持増進
- 運動の日常化
- 食に関する指導の充実
 - ・判断力・行動力を育む安全教育
 - 家庭・地域との連携協力

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を高めるための授業の導入や展開、指導法を工夫改善したり、認め合い高め合う集団づくりなど学業指導を継続して実施したりして、児童の学習意欲を高める。 ・学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質の向上に努めるとともに、対話の中で互いの思いや考えを深め合う授業展開の工夫に努める。 ・進んで学習に取り組むための具体策を子どもたちと共有するとともに、児童の頑張りを積極的に認め、各種たより、ホームページ等で、保護者に伝えていく。 	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は92.3%で、数値指標を達成した。また、保護者の肯定的回答率は、83.8%だった。 授業では根拠を基に自分の考えをまとめて友達に広めたり、友達の意見を聞いて考えを深めたりする学習活動を継続してきた。</p> <p>【次年度の方針】 児童の頑張りが見られたことについては、積極的に認めるとともに、進んで学習に取り組めるような学級の雰囲気作りや、児童が理解しやすい教材の工夫、1人1台端末の活用などを行い、興味・関心を高める。また、各種たより等で保護者にも伝えるようにする。よりよい授業になるよう、全教職員で指導法を工夫改善する。一人一授業を実践し、互いに学び合うことで教師の授業力向上を図る。</p>
	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率80%以上</p>	<p>○本校及び地域学校園道徳教育の重点項目の一つに「思いやり・親切」を掲げ、各教科等や体験活動等と関連した道徳の授業を連携・工夫して実施することで、生命や人権を尊重する心、思いやりの心を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科道徳及び人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通して計画的に道徳及び人権教育を実施する。 ・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年や幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。 ・掲示物や帰りの会などを活用して、友達の良いところを認め合う機会を設定することで、互いのよさを認め合おうとする意識を高める。 	B	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率は、教職員が91.7%、保護者が92.3%で、数値指標を達成している。昨年度よりも教職員は4.3ポイント、保護者は0.2ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 学級・学年経営、道徳、学級活動などの時間を活用し、生命や人権を尊重する心を育成しつつ、児童一人一人のよさに目を向け、児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を行う。異学年交流などを通して、助け合いや思いやりの心を育てるとともに、帰りの会などを活用して、今日のキラリ賞と題して、友達の良いところを認め合う機会を設定する。</p>
	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活のきまり（「新田小のよい子の一日」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、同一歩調で連携して粘り強く取り組む。 ・児童の実態をもとに、生活目標にきまりとマナーに関する目標を設定し、朝の会や帰りの会で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。 	A	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は、87.5%で、数値指標を上回った。昨年度よりも3.7ポイント上回り、市の平均よりは1.9ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 生活のきまりを見直すとともに、きまりの意味を児童とともに考えていくことを通して、きまりの必要性を感じ取らせながら継続して指導することで生活習慣の定着を図る。また、きまりやマナーに関する目標を設定し、帰りの会等で振り返る活動を日々継続することで、児童の規範意識を高めていく。</p>

<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率各 80%以上</p>	<p>○全学級ローテーションの「あいさつ運動」や、若松原地域学校園小中連携による「WGSあいさつ運動」を継続していくとともに、「あいさつ運動週間」における振り返りを行い、意識を高める。また、あいさつ標語を作ることで、意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝や帰りのあいさつに加え、様々な時と場に応じたあいさつの実践に向けて、取組を工夫していく。 ・日々のあいさつ運動の様子をホームページや各種たより等に掲載し、児童の様子を知らせ、PTAや地域協議会と連携し、「大人から進んであいさつする」活動を地域ぐるみで展開していく。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は、94.6%で数値指標を上回り、昨年度よりも1.9ポイント上回った。保護者の肯定的回答率は、85.5%で数値指標を上回り、昨年度よりも6.2ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 校内及び地域学校園でのあいさつ運動や授業等の場面を通して、時と場に応じたあいさつの定着を図るとともに、地域住民とともに登下校時のあいさつの充実も図っていく。</p>
<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や各教科の授業、「すすくチャレンジカード」など、各種検定等において、児童が目標に向かって粘り強く取り組み振り返る機会を設けるとともに、教職員が児童の変容を見取り称賛していく。 ・1日の終わりや学期の節目等に、児童が相互に認め合う場や、称賛し合う場、教職員が認め励ます場を工夫して設定し、「きらり賞」や「宮っ子心の教育表彰」などを通して、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・道徳科の「希望と勇気、努力と強い意志」の学習を通して、粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践意欲を高めていく。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、89.2%で数値指標を上回り、昨年度よりも1.5ポイント増えた。感染症対策を講じながら、少しずつ学校行事等が元に戻りつつある中で、児童が様々な体験を通して、達成感を感じることができた結果と考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 学級活動や各教科の授業、各種検定等において、夢や目標をもつことや、日々の努力の大切さを実感させ、粘り強く意欲的に取り組めるようにねらいを設定していく。1日の終わりや学期の節目等に児童が相互に称賛し合う場を設けたり、「キラリ賞」や「宮っ子心の教育表彰」で頑張りを認めたりすることにより、自己肯定感を高めていく。道徳科の学習で考えたことや、児童の思いなどを紹介する機会を設定し、実践意欲を継続できるよう工夫をしていく。</p>

<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の健康に関心を持ち、望ましい生活習慣と健康を管理する力を身に付けられるよう、学級活動や体育科、学校行事と連携したり、すくすくファイルや食育ファイルなどを活用し、養護教諭や学校栄養士などと連携したりした保健指導や日常の生活指導を行う。 ・栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣等、各教科・領域との関連を図った食育を推進する。 ・判断力・行動力を意識した安全教育を推進するために、登校指導や下校指導において、より一層児童の実態に即した安全指導を行う。また、交通安全教室、避難訓練等の計画を「判断力・行動力」の視点で見直し、全教職員の共通理解のもと実践する。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 94.8%、教職員は 91.7%で、数値指標を達成した。 児童が自分の健康に関心をもつことができるように養護教諭や学校栄養士と担任が連携したり、すくすくファイルや食育ファイルなどを活用したりして、保健指導、食育指導を行った。 感染症を予防するために保健委員会による手洗いチェックを実施したり、授業を通して学校栄養士による給食指導を行ったりした。 自主的な運動を推進するために、運動委員会から呼び掛けを行ったり、なわとびチェックを実施したりして児童の意識の向上を図った。</p> <p>【次年度の方針】 すくすくファイルや食育ファイルなどを通して、健康や安全についての振り返りを行い、児童の意識を高めていく。 養護教諭や学校栄養士と連携した指導を行う。 運動量が確保された体育の実践と、外遊びを推進し、体力向上を図る。 自ら主体的に判断し行動できる場面を設定した安全教育を推進していく。</p>
<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる」【A5再掲】 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、キャリアパスポートを活用し、学級活動との連携を図りながら、児童が自分のよさに気づき夢や目標をもって取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観及び職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間等、各授業において、家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする契機とする。 ・市内や地域での校外学習等を通して、多くの「人、もの、こと」に触れる場を設定することにより、それらのよさに気づき興味関心を高める機会とする。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、89.2%で数値指標を上回り、昨年度よりも 1.5 ポイント増えた。学級活動や生活科・総合的な学習の時間等、教科横断的な取組の中で、児童が様々な体験を通して、達成感を感じる事ができた結果と考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 学級活動と連携を図りながら、キャリアパスポートを活用し、自分のよさに気づき、夢や目標をもって意欲的に取り組むことができる児童を育成する。感染症対策を講じながら、可能な範囲で体験活動や交流活動を実施し、積極的に地域と関わろうとする態度を育成する。</p>

<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTを有効に活用した外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・教師自身がALTに積極的に関わり、放課後の打合せを綿密に行い、外国語活動の教材研究をしたり、公開授業や授業研究会に参加したりすることにより、自己の授業向上に努める。 ・他教科領域においても国際理解教育と関連付けて、グローバルな視点を育てるという意識をもった授業を行うよう努める。 	<p>【達成状況】 児童の肯定回答率は88.4%で、昨年度より1.3ポイント上回り、数値指標を達成した。授業中はALTと友達と積極的に英語でコミュニケーションをとる児童が増えた。他教科領域での外国の文化を学ぶことを通じて、国際的な視野を育てる指導の工夫をした。</p> <p>B 【次年度の方針】 今年度同様、教師もALTに積極的に関わり、放課後の打合せを綿密に行うようにすることで、児童が楽しみながら学習に取り組めるように努める。また、公開授業や授業研究会に積極的に参加し、自己の授業力向上に努める。外国語活動や外国語の授業のみならず、他教科領域においても国際理解教育と関連付けて、グローバルな視点を育てる意識をもって授業を行うようにする。</p>
<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮学の時間を中心に、伝統文化等を体験できる学習や、ICTを活用する機会を設けることで、宇都宮のよさを児童に気付かせる。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等を通して、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導の充実に努める。 ・道徳において郷土資料を活用し郷土愛を育む。 ・教師自身が宇都宮市の歴史や文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、85.7%で数値指標を上回り、昨年度よりも3.8ポイント増えた。第3学年の社会科や、高学年の総合的な学習の時間で宇都宮を学ぶ機会が増えたり、宮っ子ランチの献立などから、地域への関心が高まったりした結果と考えられる。</p> <p>B 【次年度の方針】 伝統文化の体験や、ICT機器の活用を通して、児童に宇都宮のよさを気付かせる。また、可能な範囲で校外学習を実施し、身近な地域や宇都宮のよさに触れる機会を設定する。道徳科において、郷土資料を活用したり、教師自身が宇都宮市の歴史や文化について理解を深められるよう、研修等に進んで参加したりする。</p>
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育年間計画に基づき、各教科年間指導計画等と関連を図りながら、児童1人1台の端末やICT機器を活用し、効果的な学習に取り組めるようにする。 ・市立図書館学校支援室や地域学校園の学校図書館等を有効に活用し、各学年の学習のニーズに応じた教育図書の整備充実を図ったり、時期を得た調べ学習コーナーを設定したりするなど、学校図書館及び校内の環境整備に努める。 ・学校図書館利用の時間や読書・読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して、児童の図書活用への意欲を高める。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、88.2%であった。昨年度よりも1.1ポイント上がり数値目標を達成した。</p> <p>B 【次年度の方針】 各教科、総合的な学習の時間等において調べ学習をする場合、図書資料から必要に応じて情報を得る経験を重視する。ICT機器を活用して、インターネットから検索する場合、情報の正確性について発達段階に応じて指導する。 得た情報をまとめる場合に、1人1台端末を有効に活用させる。 教科指導において、AIDリルを併用して行い、学習理解の定着を図る。</p>

<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している」【A2再掲】 ⇒児童の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせや学習支援などボランティアなどの身近な高齢者にお世話になっていることを意識させ、各学習活動や感謝の会等の行事において、高齢者や地域の方と交流する機会を設け、感謝の気持ちや相手を思いやる心を育む。 ・各教科・領域や体験活動等と関連した道徳の授業を工夫して実施し、生命や人権を尊重する心、思いやりの心を育む。 ・総合的な学習の時間や国語の学習等で住みやすい環境について調べる活動を通して、高齢者のことを考えて生活していこうとする意識を高める。 <p>【A2再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科道徳及び人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通して計画的に道徳及び人権教育を実施する。 <p>【A2再掲】</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は、91.9%で数値指標を上回っている。昨年度よりも1.4ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 読み聞かせや登下校、学習ボランティアなど、日々の活動の中で、身近にいる多くの高齢者にお世話になっていることを意識させる。感謝の会等を活用し、感謝の気持ちを育むことができるようにする。総合的な学習の時間や国語の学習等でバリアフリーなど住みやすい環境について調べる活動を通して、高齢者のことを考えて生活していこうとする意識を高める。</p>
<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科や総合的な学習の時間等、環境教育に関わる一連の学習を再構築し、効果的な指導を行う。 ・各種出前授業等、関係機関の教育力を積極的に取り入れて、環境問題への関心及び知識・技能を高めるとともに、これまでの生活を振り返り、自分にできることを考え実践しようという意識や態度を育成する。 ・過去の災害に学ぶ機会を設けるとともに、自ら判断し行動することの大切さを、避難訓練等を通して繰り返し指導する。 	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、90.2%で数値指標を上回り、昨年度よりも7.9ポイント増えた。第5学年の総合的な学習の時間で環境教育に取り組んだり、様々な場面でSDGsが呼びかけられたりするなど、環境問題への関心が高まった結果と考えられる。</p> <p>【次年度の方針】 各教科や総合的な学習の時間との連携を充実させ、学校全体に周知できる取組を行う。また、委員会活動の中で、学校内でできるSDGsについて取り上げるなど、環境問題についての啓発を行う活動に取り組む。計画的に実施している避難訓練についても、持続可能な社会と関わりがあることを伝え、さらに意識を高めていく。</p>
<p>B1 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。」 ⇒保護者の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を習慣化させるため、「すくすくカレンダー」を継続的に活用し、家庭との連携・協力を図りながら、児童自ら家庭学習の計画・実践・振り返りまでできるよう、支援に努める。 ・自主学習の手引きを作成したり、学年だよりの裏面などに家庭学習のよい事例やノートを紹介、頑張りを掲載したりして、自主学習への意欲を高めるようにする。 	B	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は69.1%で昨年度より1.4ポイント下回り、数値指標を下回った。また、児童の肯定的回答も73.6%と昨年度より1.4ポイント下回った。</p> <p>家庭学習の習慣については個人差が大きい。教師が助言や励まし等の支援をしながら取り組んでいる。</p> <p>【次年度の方針】 家庭学習の意義や内容、取り組み方について整理したり、教室などに自主学習の取り組み方や児童の頑張りを掲示したりすることで、児童の意欲付けを図る。</p>

	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する児童について、担任が一人で抱え込むことなく、組織で適切に対応できるよう、小さな気付きを伝え合える職員室の環境づくりに努める。 ・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、支援を要する児童について全教職員で共通理解を図り、個のニーズに応じた支援を組織的に行う。 ・必要時には即座に校内支援委員会を開いて対応を検討し、専門機関とつなげるなど、役割分担しながらチームで対応する。 ・適宜個別の支援計画及び指導計画を作成し、定期的に評価改善を加えながら指導支援を行う。 	<p>【達成状況】 昨年度の教職員の肯定的回答率よりも4.2ポイント下回っているものの、95.8%で、数値目標を大きく上回った。引き続き、特別な支援を必要とする児童について、担任が一人で抱え込むことなく、教職員間で共通理解を図り、組織的に対応できるように努める。</p> <p>【次年度の方針】 支援を必要とする児童について、今後も全教職員で共通理解を図り、児童の実態に応じた支援策を、教職員で組織的に行う。必要に応じて、校内支援委員会を開き、専門機関とつながるなどして、役割分担しながらチームでの対応ができるようにする。</p>
<p>目指す学校の姿</p>	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ・児童会が主体となり、標語を作成したり、強調月間に校内放送で呼び掛けたりするなど、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 ・定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。 ・学校ホームページ、各種たより等を通して、行っている活動を保護者や地域に発信し、周知を図る。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は96.3%と、指標を上回り、保護者の肯定的回答率も81.4%と、指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 学校における全教育活動を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導し、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 アンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解し、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。 学校の取組を保護者に理解してもらえよう、各種たよりやホームページ、学校公開日や授業参観等を活用して周知する。</p>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励ましかうクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が相互に認め合う場や、教職員がよさを認め励ます場を工夫して設けることにより、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・教育相談週間（年2回）や学校生活アンケート（年4回）、Q-U調査（3年以上1回、5年のみ2回）等を有効に活用し、実態把握と要配慮児童の早期発見に努めるとともに、必要時には迅速かつ適切な情報共有のもと、必要に応じて関係諸機関や家庭との連携を図りながら、組織的に支援を行う。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は93.8%と、指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 教職員が児童のよさを認め励ます場を設定し、分かる楽しい授業を心掛けるとともに、児童が相互に友達のよさを認め合う場面を充実させる。 教育相談やQ-U等により児童の実態把握をすると同時に、要配慮児童の早期発見に努めながら、組織的な支援・対応を継続していく。</p>

<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が、様々な国や文化の違いやよさを知り、互いに認め合える環境作りに努め、互いに尊重して生活しようという意識を高める指導を行う。 ・外国人児童について全教職員で共通理解を図り、日頃から必要な配慮と周囲の児童への働き掛けを継続して行うとともに、ニーズに応じた支援を組織的に行う。 	<p>【達成状況】 昨年度の教職員の肯定的回答率よりも4.2ポイント下回っているものの、95.8%で、数値目標を大きく上回った。引き続き、特別な支援を必要とする児童について、担任が一人で抱え込むことなく、教職員間で共通理解を図り、組織的に対応できるように努める。</p> <p>【次年度の方針】 支援を必要とする児童について、今後も全教職員で共通理解を図り、児童の実態に応じた支援策を、教職員で組織的に行う。必要に応じて、校内支援委員会を開き、専門機関とつながるなどして、役割分担しながらチームでの対応ができるようにする。</p>
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相互及び教師と児童の温かい人間関係を育む学級・学年経営を基盤に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、言葉掛けや「かがやきカード」でプラスのメッセージを伝え合うなど、児童の自己肯定感を高める取組を行う。 ・児童会活動や異学年交流など、様々な教育活動の内容を見直し、兄弟学年や縦割り班等の異学年交流を効果的に取り入れることで、高学年児童のリーダーシップが発揮できるよう、活動の場を増やすとともに、体験を通して思いやりの心を育てる取組を推進する。 ・教育相談や学校生活アンケート等を実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努め、全員の児童が安心して学校生活を送れるように全校体制で取り組む。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は84.2%で、数値指標及び市平均を下回った。兄弟学年や縦割り班活動等の異学年交流を行ったり、温かい人間関係を育む学級・学年経営を心掛けて指導・支援をしたりしていたが、向上しなかった。</p> <p>また保護者の肯定的回答率は87.5%で、市平均を下回ったが、昨年度の肯定的回答率を上回った。一方地域の肯定的回答率は100%で、市平均を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 全児童対象の教育相談や学校生活アンケート等を実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努め、全児童が安心して学校生活を送れるように全校体制で取り組む。</p> <p>これからも温かい人間活動も育む学級・学年経営を核に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を、教師自身もゆとりをもって行うようにする。</p> <p>更に、児童会活動や異学年交流等の内容を見直し、高学年児童のリーダーシップを発揮できる活動を増やしていく。</p>
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認することにより、基礎・基本の定着を図る。 ・「分かる・できる・楽しい授業」を展開するため、児童の振り返りを生かした授業改善に努める。 ・ティームティーチング、少人数指導、かがやきルームでの指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。 ・個に応じた「朝の学習の時間」などを充実させ、個に応じた発展的な課題について改善を図り、学力の定着を図る。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は94.4%で、昨年度より1.9ポイント下回ったが、保護者の肯定的回答率は82.4%で、昨年度より2.8ポイント上回った。板書により児童の思考が整理できるよう促したり、ノート指導を強化したりしてきた。</p> <p>振り返りの内容は、個人差が見られる。ドリル学習や小テストを取り入れ、少しずつ基礎基本が定着してきた。</p> <p>【次年度の方針】 基礎・基本の確実な習得と、個に応じた発展的な課題について改善を図り、学力の向上を目指す。また、TTや少人数、かがやき等の指導を充実させ、児童の意欲付けにつながるようにする。</p>

<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館司書や外国語指導助手(ALT)、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー(SC)等、多様な専門性を有する学校スタッフが、「チーム学校」としてよさを最大限に発揮できるよう、教職員間でコミュニケーションを図り、取組の目的や運営方針、方法等について十分に話し合い、共有して取り組めるようにする。 ・明るく和やかな雰囲気の中で信頼関係を築くことができるよう努め、情報交換や振り返りを通して改善を加えながら、報告・連絡・相談を徹底し進めることで、一人一人が十分に力を発揮できるようにする。 	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率は91.7%で、数値指標を達成した。職場での人間関係は良好で、皆が協力し合っている。教職員と学校スタッフとの間でも、こまめに打合せや情報交換をしながら職務に当たっている。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、教職員間でコミュニケーションを図りながら、全教職員で「チーム学校」体制で学校運営を行う。また、問題が起きたときは、報告・連絡・相談を徹底し、学校体制で対応を図る。</p>
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の働き方改革の視点に立って、教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的、効率的な業務の処理、改善に努める。 ・本校の教職員が精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるよう、フォーカス&スクラップの考えに立ち、児童の実態等に考慮し、教職員の意見を反映させて教育課程や校務分掌、各業務を見直し、各種行事等の目的を明確にして、実施方法の見直し、改善、業務のスリム化を行う。 ・学習情報システムやICTをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務の効率化を図る。 	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率は54.2%で、数値指標及び市平均を大きく下回った。働き方改革を意識して業務に取り組んでいるが、日々の児童指導や保護者対応に時間がかかっているため、目指す業務環境には至っていない。</p> <p>【次年度の方針】 児童の実態等を考慮し、教職員の意見を反映させて教育課程や校務分掌、各業務を見直す。また、各種行事等の目的を明確にして実施方法等を見直し、業務のスリム化を目指す。それらにより、教職員が精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるようにする。</p>
<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒教職員の肯定的回答率90%以上</p>	<p>○小中9年間を貫く教育が児童の望ましい成長につながるよう、目的や方法について全教職員が理解を共有し、連携して推進する。</p> <p>○WGS あいさつ運動や宮っ子チャレンジなど、中学生の行事等への参加などを積極的に受け入れ、地域の活性化を図る。</p> <p>・取組の様子や成果等を保護者や地域に各種たよりやホームページなどで、積極的に発信し、理解と協力を仰ぐ。</p>	<p>【達成状況】 教職員と地域住民の肯定回答率は、どちらも100.0%となり、数値指標を達成した。WGS あいさつ運動と宮っ子チャレンジが実施できたので、児童生徒の肯定的回答率は、前年度を11.3ポイント上回り94.2%となった。</p> <p>保護者の肯定的回答率のみ、74.3%と低い水準にとどまった。</p> <p>【次年度の方針】 状況に合わせて、あいさつ運動等を継続して実施していく。保護者への周知方法は、さくら連絡網を利用するなど、更に工夫していきたい。</p>

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施するとともに、人材発掘にも取り組んでいく。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。 ・交流学习やふれあい活動など、参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 ・活動の内容を各種たよりやホームページなどで紹介し、活動への理解を促す。 	<p>【達成状況】 地域住民の肯定回答率は、100.0%となり、数値指標を達成した。しかし、保護者は81.5%で、数値指標を下回った。 新型コロナウイルスの影響により、実施回数が少なかった。 読み聞かせボランティア、学校農園ボランティア等は、状況に応じて活動していただいた。</p> <p>【次年度の方針】 感染症対策をした上で、状況に合わせながら実施していく。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施するとともに、人材発掘にも取り組んでいく。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。【A22 再掲】 ・交流学习やふれあい活動など、参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 【A22 再掲】 ・活動の内容を各種たよりやホームページなどで紹介し、活動への理解を促す。 【A22 再掲】 	<p>【達成状況】 地域住民の肯定回答率は、100.0%となり、数値指標を達成した。しかし、保護者は81.5%で、数値指標を下回った。 新型コロナウイルスの影響により、実施回数が少なかった。 租税教室、薬物乱用防止教室等は、状況に応じて実施した。</p> <p>【次年度の方針】 感染症対策をした上で、状況に合わせながら実施していく。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の安全な環境を維持するため、安全点検実施計画に基づき、毎月、校内施設・設備の点検を組織的に実施し、危険箇所があれば迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ・熱中症予防対策、感染症対策など、適宜必要な保健指導管理及び関係者への周知徹底に努め、温湿度計や加湿器、サーキュレーターなどを使って、適切な管理を行う。 	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%、保護者は88.2%で、数値指標を達成した。 安全点検実施計画に基づき、校内安全点検や危機管理マニュアルの整備、避難訓練を実施した。 教員業務支援員（SSS）や教職員による校内の消毒や教室の換気の徹底、加湿器、サーキュレーターを使用した。 体育館にも熱中症計を設置して、機器を使った温度・湿度測定などの活動を行った。 各教室へのアルコール消毒液の配付や感染症対策セットの活用により、予防対策を行ったり、職員研修等で周知徹底を図ったりした。</p> <p>【次年度の方針】 安全点検の実施や危機管理マニュアルの整備、避難訓練等を行うとともに、熱中症及び感染症予防のため、温湿度計や加湿器、サーキュレーターなどを使って、適切な管理を行う。</p>

	<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上</p>	<p>・情報教育年間計画に基づき、各教科年間指導計画等と関連を図りながら、児童1人1台端末やICT機器を活用し、効果的な学習ができるようにする。</p> <p>【A10再掲】 ・市立図書館学校支援室や地域学校園の学校図書館等を有効に活用し、各学年の学習のニーズに応じた教育図書の整備充実を図ったり、時機を得た調べ学習コーナーを設定したりするなど、学校図書館及び校内の環境整備に努める。</p> <p>【A10再掲】 ・読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。【A10再掲】</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、88.2%であった。昨年度よりも1.1ポイント上がり数値目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 各教科、総合的な学習の時間等において調べ学習をする場合、図書資料から必要に応じて情報を得る経験を重視する。ICT機器を活用して、インターネットから検索する場合、情報の正確性について発達段階に応じて指導する。 得た情報をまとめる場合に、1人1台端末を有効に活用させる。 教科指導において、AIドリルを併用して行い、学習理解の定着を図る。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B2 学校は、家庭や地域と連携・協力して、児童の安全確保（交通災害救急体制食物アレルギー等）のため危機管理に努めている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協力して、児童の安全確保のため危機管理に努めている」 ⇒保護者の肯定的回答率90%以上</p>	<p>・児童の安全確保のため、家庭や地域及び関係機関から安全・安心に関わる情報を得るなど、連携・協力して、未然防止及び緊急対応のための体制を整える。</p> <p>・危機管理マニュアルを定期的に点検・改善・共有し、緊急時の迅速かつ確な対応に努める。</p> <p>・地震・火災、竜巻、不審者対応避難訓練及び保護者への引き渡し訓練等を年間計画にバランスよく配置して実施し、家庭や地域に情報を発信する。</p> <p>・「こども110番の家」協力者の更新・整備を保護者や地域と連携・協力して行う。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率は89.8%で、やや数値指標を下回った。 心肺蘇生法研修や食物アレルギー対応研修を実施したり、学校保健・学校給食委員会を開催したりして、未然防止及び緊急対応のための意識を高めた。 児童の安全のために、保護者・地域に便りを配付したり、一斉メールで注意喚起をしたりしてきた。 PTA活動として、保護者による登下校の見守り活動を依頼し、児童の安全や危険箇所等を確認した。</p> <p>【次年度の方針】 児童の安全のために学校の取り組みを保護者や地域住民に積極的に発信したり、地域の方から安全・安心に関わる情報を得たりして、共に児童のために連携、協力することで、よりよい関係を構築していく。</p>
	<p>B3 児童は、読書のよさに気づき、進んで本を読んでいる。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート「私は読書のよさに気づき、進んで本を読んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上</p>	<p>・定期的な読書の時間や、ボランティアによる読み聞かせ、ブックトーク、読書週間での催し等、本にふれあい親しむ多様な体験を通して、読書に対する興味関心を高め、楽しさに気付けるようにする。</p> <p>・本校図書の分館貸出し、市立図書館学校支援室の有効活用や、児童によるポップ作成で本の紹介をするなど、本を手にするための場を増やしたり、家庭と連携した家読（「家族読書」）を実践したりすることで、児童と本をつなぐ取組を推進する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、78.0%で、数値目標を下回った。教職員の肯定的回答は、91.7%と高い数値を得ており、教員と児童との意識に差が生じていることが分かる。</p> <p>【次年度の方針】 感染症対応策のため、業間や昼休みの図書室利用において自由開館を制限してきたが、今後の状況に応じて利用の規制を解除し、貸出の活性化を図る。 登校後の朝の活動時間帯に「読書タイム」を促し、図書に触れる機会を設定する。 「マルチメディアDAIZY図書」を職員に周知し、拾い読み等の困り感のある児童に耳からの音声で図書と触れ合う多様な支援方法を取り入れる。</p>

<p>B4 児童は、異学年交流を通して、自主性や豊かな人間関係を育んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>学校独自アンケート「私は、異学年交流で、多くの友達と助け合いながら楽しく活動している。」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上</p>	<p>・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年での農園活動などや幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。【A2再掲】</p> <p>・縦割り班の班長を中心に児童が主体的に活動できる機会を増やしたり、学年ごとに役割を与え、互いに教え合う機会を意図的に設定したりする。これらのことで、他の人のために役に立っているという意識(自己有用感)を高めるとともに、上学年が下学年の学級で、学習の成果を発表したり、下学年が上学年にインタビューしたりする活動を通して、互いのよさを見つけ、協調して活動しようという態度を育てる。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>児童の肯定的回答率は88.6%で、数値指標を下回った。ただし、昨年度よりも3.3ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>縦割り班共通遊活動や縦割り清掃、農園活動など、児童が主体的に活動できるよう工夫しながら異学年交流を推進していく。上学年が下学年の面倒を見たり、学習の成果を発表したりする活動を推進する。また、異学年交流活動では各学年の児童にそれぞれの役割を与え、責任をもって活動したり、互いに教え合ったりする機会を作ることで、人の役に立つ喜びを実感させ自己有用感を高めるとともに、他を思いやる心を育てていく。</p>
--	---	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 29項目中21項目で、肯定的回答率が数値指標を上回った。
- ・ 目指す児童の姿の「**進んで学習**」「**思いやりの心**」「**きまりやマナー**」「**あいさつ**」「**健康や安全**」「**ICT 機器や図書等**」、目指す学校の姿の「**いじめ対策**」「**不登校を生まない学級経営**」「**活気があり明るいきいきとした雰囲気**」で、保護者・地域・児童のうち該当する全ての対象から概ね高い結果が得られたが、昨年度よりも肯定的回答割合が下回った項目もあった。今後とも、本校・本地域のよさを生かし、協力・連携を深めながら教育活動を実施していきたい。
- ・ 保護者・地域・児童から高い結果が得られている目指す児童の姿の「**進んで学習**」「**きまりやマナー**」「**健康や安全**」、目指す学校の姿の「**活気があり明るいきいきとした雰囲気**」では、教職員の肯定的回答割合が、昨年度を上回っている。しかしながら、目指す児童の姿の「**思いやりの心**」「**あいさつ**」、目指す学校の姿の「**いじめ対策**」「**不登校を生まない学級経営**」では、教職員の肯定的回答割合が、昨年度を下回っている。教職員の意識の高さを感じるものの、課題解決に向けて、教職員が共通理解を図り、同一歩調で取り組んでいくことが重要である。今後も、協働体制で学校運営に取り組んでいきたい。
- ・ 本校の特色・課題である「**異学年交流**」においては、コロナ禍に対応した活動を行ってきた結果、地域・児童・教職員で肯定的回答割合が昨年度を上回り、高い結果が得られている。引き続き、学校での取組を保護者に積極的に情報発信することを続けていきたい。また、「**家庭学習の習慣**」「**進んで読書**」においては、該当する対象の肯定的回答率が数値指標を下回り、昨年度に引き続き、課題が見られた。今後、さらなる改善に向け、工夫した取組が必要である。
- ・ 「**小中一貫・地域学校園の取組**」「**地域の教育力を生かした特色ある教育活動**」「**家庭・地域・企業等との連携・協力**」についても、地域住民の肯定的回答割合が100%であった。学校での取組を保護者や地域に積極的に情報発信することや、相互理解の下、より一層の連携・協力を推進する取組が重要である。
- ・ 未来を担う子どもたちのよりよい成長のために、本校のもつ地域の特色やよさを最大限に生かしながら、学校を取り巻く様々な実情にしっかりと目を向け、よりよい教育活動の再構築を目指したい。

7 学校関係者評価

★＜テーマ1＞「きまりとマナー」「あいさつ」

- ・ 学校へ行く機会が少なくなり、正直良く分かりませんが、コロナウイルスでまもらなくてはいけないきまりなどが多い中で、児童は良く出来ていると思います。
- ・ きまりとマナーに関しては、特に問題はないと思う。
- ・ あいさつは、下校時にあいさつはよくしていると思う。子供の方からしてほしい。
- ・ 自ら自主的にあいさつのできる子、こちらから声をかけてする子、様々だが、はきはきと笑顔であいさつのできる子が多いと感じる。
- ・ あいさつはよくできていると思うが、声が小さいので、もう少し元気が欲しい。
- ・ 押し付けの指導ではなく、理由をしっかりと教えることにより、さらに良くなると思います。
- ・ 学校の生活は、決まり（マナー）を守らなければ授業が出来ません。又、あいさつは、日常（学校）生活する原点でも有り、あいさつの出来ない人は、共同生活する上で、大事で有る事を教えていけば良いと思います。地域でもあいさつは難しい時代に入っているのは事実でも有ります。
- ・ 朝の登校では、引率者に従い整列して登校しているが、下校時は、ふざけながら下校している姿が見受けられる。少し周りに気を遣うよう注意願いたい。

- ・ あいさつ、登校時は、こちらから挨拶するが挨拶を返してくる児童は少なく、黙って通過する子供たちが大半であるが、下校時になると学年別や少人数でからか、大半の児童が言葉を返してくる。集団では、周りに遠慮したり、テレがあったりするのかもしれない。
- ・ きまりとマナー、守れていないと思います。
- ・ あいさつ、東門で見守りをしている班長さんがあいさつをすると、する子もいますが、まだまだ来ていないと思います。

★<テーマ2>「地域の教育力を生かした特色ある教育活動」「家庭・地域・企業等との連携・協力」

- ・ コロナウイルスで活動が制限されるこの状況で、良く活動が出来ていると感じています。自治会、ボランティアの方々など、協力があってのことだと思います。
- ・ 地域でのお祭りやイベントには、積極的に参加してもらい、会場の盛り上がり大いに貢献してもらい感謝しています。今年度は、盆踊りの代わりに夏祭り「サマーイン上坪」を開催、野外体験で飯盒炊きや火おこしを体験してもらい、秋祭りでは、子共神輿の町内巡行が実施でき、楽しいひと時を過ごせました。
- ・ 地域では、祭りごと、今回で2回実施しました。とても楽しく自分から進んで、いろいろ（ゲーム）まわって、あそんでいました。学校ではあまりわかりませんが、太鼓の音が聞こえたり、輪投げをしていたりしているようで、子どもたちがいきいきしていました。
- ・ 地域の方々に何かをしてもらうばかりではなく、児童が地域に関わっていける様な活動が出来ると良いと思う。
- ・ 高学年を対象とした職場訪問、あるいは企業の方によるお話会等を実施すれば、子供達の育成につながると思います。
- ・ 家庭、地域は、以前「街の先生」制度を復活させ、地域の定年者は登録し、自分の仕事を学童に教えるボランティアを拡大する事が大事で有り、又企業との連携は、学校側が年度始めに会社訪問し、お願いする事が一番良いのではないのでしょうか。常に会社と連携プレイを図る。
- ・ 家庭、地域、企業が一体となって連携した活動を進めて行くことが必要と思われる。
- ・ 育成会との連携のもと、公園の花壇づくり等を行ったが、参加者が少なく、課題である。引き続き育成会とのコミュニケーションを深めていくことが重要と考え、取り組んでいきたい。

★<テーマ3>「児童の安全確保・危機管理」

- ・ 自治会の方々やボランティアの方の登下校の見守りは、大変ありがたく、児童の安全につながっていると感じています。
- ・ 登下校時の見守り活動は、大変ありがたい。
- ・ 地域での防災訓練には、子供たちの積極参加を呼びかけ実施している。
- ・ 子供たちの安全確保は、我が自治会の最優先課題であり、交通事故や不審者等から子供たちを守るため、チーム（針ヶ谷子供見守り隊）を結成し、毎朝下校時に主要道路交差点等で見守り活動を行っている。
- ・ 通学路での危険箇所を解消するため、毎年、自治会・警察・市役所等、関係機関と通学路の危険箇所を洗い出し、解消に向け各機関と調整し、解消している。
- ・ 学校及び家庭において事故防止等について、指導されていると思いますが、自主的な判断が出来なくなるような見守り、指導はいかがなものと思います。自ら判断し行動することも必要ではないのでしょうか。
- ・ 安全確保と危機管理は、信号機に置き換えて、青（進め）赤（止まれ）を自分の目で判断して、自分の（命）は自分で守るという事を教えていけば良いと思います。地域での防災訓練等は、進んで参加し、学ぶ事が大事と言う事も合わせて教えることが大事だと思います。
- ・ 児童と安全確保は、特に交通事故等、自分の身は自分で守るということを徹底して行くべきと思う。
- ・ 見守りを中心に行っているが、当地域にあっては、不十分と考えている。
- ・ 登下校のとき、話をしながら歩道から道路に出る所を時々見掛けます。ふざけていると思うのですが、もう一度注意してほしいです。

☆その他

- ・ 長いコロナ生活で先生方も大変だと思います。児童がマナーを守って生活できていると感じるのも、先生方の指導が伝わっているのだと思います。
- ・ 各テーマが具体的にどのように実施されているか判断がつかないので、取組状況を説明していただければ意見が出やすいと思います。
- ・ 学校は、地域にお願いする事が有ると思いますので、年に一度位、学校で代表者の要望を聴く場所（学校）を設けた

らどうですか。

- ・ 平和の大切さを学ぶ教育のさらなる充実を願います。
- ・ 当自治会には、古くからの神社（熊野神社）や風習が残っており、神社の初詣や祭り、また、無病息災を祈るどんと焼き等、子供たちに地域の文化や伝統を経験してもらい、後輩に受け継いで伝統継承を学んでほしいと考えております。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<学校運営>

- ・ 重点目標に「個と集団を育てる教育実践、組織力・同僚性による効率的な職務の遂行、家庭・地域と一体となった取組の推進による、活気と創意に満ちた学校づくりの推進」を掲げ、あいさつの響く学校づくりの推進や楽しい授業の実践を繰り返し、居心地のよい温かな学級集団づくりに取り組んだり、読書活動の推進、勤務時間を意識した効率的な業務の遂行や学校だより、学年だよりなどを活用した子どもの姿を伝える積極的な情報発信を行ったりと、保護者や地域の協力の下、教職員が一丸となって推進してきた。次年度も、教育目標である「よく考える子ども」「思いやりのある子ども」「体力のある子ども」「はたらく子ども」の実現を目指し、引き続き、学校と家庭、地域が協働し一体となって取り組んでいけるよう、ホームページやさくら連絡網などを生かし、情報発信を強化するとともに、教職員が互いに磨き合う意識を高め、切磋琢磨する場の充実を図るとともに、風通しの良い職場環境を高めることで、学校力を高めていく。

<学習指導>

- ・ 「自ら学び、互いに高め合う児童の育成～自分の思いを豊かに表現するための授業の工夫～」を重点目標に掲げ、望ましい学習態度、習慣の定着、学力の基礎・基本の確実な定着、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、読解力・表現力の育成、読書活動の推進、家庭学習の習慣化について実践を繰り返してきた。今後も今年度の成果と各種調査の結果を踏まえて、更に児童の実態に即した工夫改善を行うことにより、児童一人一人が学ぶことの本質的な楽しさを体感し、互いに高め合う態度を身に付けられるよう、実践を繰り返していく。また、地域素材や地域人材、地域の教育力を生かして、児童が互いのよさを認め合い、自分の思いを豊かに表現するための授業展開を追究していく。

<児童生徒指導>

- ・ 「自他への思いやりの心を持ち、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成～学年・学級経営の充実を基盤として～」を目指して、礼儀を意識した挨拶の定着、規範意識の醸成や自己肯定感・自己有用感を育む学級経営の工夫、主体性・思いやりを育むための縦割り班活動や異学年交流の充実、奉仕の心を持ち、自ら進んで仕事に取り組む態度の育成について、家庭・地域・関係機関と連携し、基本的な生活習慣の定着と規範意識の醸成、望ましい学年・学級集団づくりに向けたよりよい人間関係づくりを推進してきた。今後も引き続き、学年・学級経営の充実を基盤とした自他への思いやりの心を持ち、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成を目指し、課題となるあいさつ、きまりやマナーの定着に向けて、家庭や地域との連携を深めながら取り組んでいく。

<健康（体力・保健・食・安全）>

- ・ 「自らの健康に関心をもち、望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成～生活習慣の改善を目指した保健指導の取組を中心として～」を重点目標に、家庭・地域と連携し、健康の保持増進、運動の日常化、食に関する指導の充実及び判断力・行動力を育む安全教育、家庭・地域との連携協力について推進してきた。今後も、同重点目標に向かって、これまでの成果と児童の実態をもとに取組を更に充実させていく。児童が自らの命を自分で守り、健康を保持増進するために、主体的に考え、判断し、行動することができるよう、更なる指導の工夫改善を行う。その中で、困難への挑戦や苦手なことの克服等、夢や目標に向かって諦めずに取り組み、自己肯定感やたくましい心につながる体験を重視していく。